

中小企業でも徐々にDX化が進む

<https://www.saxa.co.jp/>

中小企業「DXに取り組んでいる」は3割弱 「書類の電子化」がトップ

サクサホールディングス㈱(東証プライム上場、東京都港区)が実施した中小企業の経営者調査によると、「DX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組んでいる」との回答は約27%だった。具体的なDXの施策を聞いたところ、「書類の電子化」「顧客管理(名刺管理を含む)」との回答が多く、それぞれ半数近くに達した。少子・高齢化による生産年齢人口の減少が進む中、中小企業でも徐々にDX化が進みつつある。

サクサホールディングス㈱は中堅・中小企業のオフィスのDX支援や情報通信システムの開発、製造、販売などを手掛けている。調査は当社が中小企業の経営者を対象に7月21日~24日に実施し、218件の回答を得た。回答した企業の業種は建設業、製造、卸売・小売、不動産、サービス、情報通信、金融・保険、宿泊など。

「DXで具体的にどんなことを実施してい

るか」との質問に対しては、「書類の電子化」が49.2%と約半数を占めた(複数回答)。

「顧客管理(名刺管理含む)」が47.5%で続いた。「経費精算」「情報セキュリティ対策」もそれぞれ40.7%と非常に高い比率を占めた。

「電子契約・決済」「スマホ活用」「その他業務管理」も、それぞれ全体の3分の1と比較的高い水準に達した。「勤怠管理」や「PC、スマホ付与によるノマドワーク」も2割以上の経営者がDXで実施している具体例として挙げた。

一方で「DXに取り組んでいない」との回答も72.9%あった。予算不足や人材不足もあり、多くの中小企業ではなおDX化に着手することが難しい状況が続いているようだ。

